

日本史(17) 「天平文化② 国家仏教・美術(建築) 編」

○今回のポイント

【国家仏教の展開】

(1)[1. _____]



⇒ 仏教によって国家の安定をはかるという思想

(2)南都六宗 → [2. _____]

- ・奈良の大寺院でインドや中国の仏教理論の研究が進む
- ・法相宗の[3. _____]…玄昉・行基らの多くの弟子を育てる。
- ・華嚴宗の[4. _____]…唐・新羅の僧から華嚴を学び、東大寺建立に活躍。
- ・三論宗の[5. _____]…入唐経験者。大安寺建立に活躍。

(3)玄昉と鑑真

最新の文明を身につけた一流の知識人として政界で活躍した僧たち。

<p>6.</p>  <p style="text-align: center; font-size: small;">玄昉像（興福寺蔵）</p>	<p>9.</p> 
<p>法相宗の僧。[7. _____]に信任され、橘諸兄政権に参画。大仏造営など、鎮護仏教の確立に努めた。[8. _____]の台頭で筑紫観世音寺に左遷され、その地で死去した。</p>	<p>日本に[10. _____]を伝えて、仏教の発展に寄与。</p> <p>①正式な僧侶となるためには得度(出家の儀式)をして修行し、[11. _____]することが必要とされた。受戒の際の正式な戒律を伝えたのが鑑真。</p> <p>②[12. _____]の建設</p> <p>③聖武太上天皇、光明皇太后、孝謙天皇へ戒を受ける。</p> <p>④「[13. _____]」…受戒の場として東大寺、九州の筑紫観世音寺、東国の下野薬師寺に戒壇を設置。</p>

(4)行基

■仏教は政府からきびしく統制を受け、一般に僧侶の活動も寺院内に制限される。

↓

■取り締まりを受けながらも、[14. _____]の活躍。

↓

・渡来人系の僧。初め法相の教義を学び、やがて民間に布教して政府から弾圧を受けた。諸国を巡遊し、宿泊施設の布施屋の設置など社会事業に協力。政府の要請で大仏造営に協力。大僧正に任じられた。

■社会事業＝善行を積むことにより福德を生むという仏教思想

・ [15. _____]の社会事業

・平城京に[16. _____]を設けて孤児・病人を収容、[17. _____]を設けて医療にあたらせた。

(5)仏教の変容

①国家財政の負担…仏教保護政策下における大寺院の壮大な伽藍や広大な寺領が大きな負担となる。

②[18. _____]…仏教が日本の社会に根付く過程で、仏教を現世で利益を得る手段と見なすようになる。

③[19. _____]との結合…祖先の霊を弔うための仏像の造立や経典の書写などが行われる。

④[20. _____]…伝来してきた仏と日本古来の神は本来同一であるとする考え方。

⑤大寺院からの離脱…仏教の政治化を嫌って山林にこもって修行。平安仏教の母体となる。






【天平の美術】

(1)天平美術の特徴

・ 宮廷・貴族や寺院の豊かな生活 + 仏教の発展 ⇒ すぐれた美術作品。

(2)建築

・ 寺院や宮殿に礎石・瓦を用いた壮大な建物が建てられた。いずれも均整がとれて堂々としている。

<p>21.</p> 	<p>22.</p> 	<p>23.</p> 
<p>24.</p> 	<p>25.</p>  <p>[26. _____]として有名</p>	